

事業所工賃向上計画(令和6年度～令和8年度)

作成日: 令和 6年 5月 27日

1. 事業所の概要

運営法人名称	社会福祉法人みらい		
法人代表者職・氏名	早瀬 亜紀		
事業所名	けやき可児		
施設長名	安藤 健太		
サービス種類等 (プルダウンで選択)	就労継続支援B型事業所		
事業所 所在地等	〒509-0124 岐阜県可児市広見661番地2		
	電話 0574-66-1021	FAX 0574-64-1005	
	E-mail keyakikani@helen.ocn.ne.jp	担当者 杉野 浩一郎	
法人本部	〒507-0827 岐阜県多治見市平和町6丁目364番地		
	電話 0572-22-1011	FAX 0572-22-0911	
	E-mail keyaki@violin.ocn.ne.jp	担当者 板津 貴之	
定員数 (令和6年4月)	27 名	現員数 (令和6年4月)	28 名
施設の特徴	可児市役所、JR可児駅、名鉄新可児駅に近く、可児市の中心地にあるのが施設の特徴と言えます。交通の利便性から、可児市と周辺の他市町の方が利用されています。就労継続支援B型と就労移行支援の多機能型の事業所ですが、現在就労移行支援の利用者はありません。		
主要作業の内容	・弁当事業 ・喫茶(事業所内と可児市役所内の2店舗) ・軽作業(部品の袋詰めなど) ・施設外作業(清掃など)		

2. 目標工賃月額の設定

水色のセルは自動計算になっています。
入力しないでください。

【実績額と目標工賃月額】

各年度の目標工賃額は前年度の額以上としてください。

	実績額	目標工賃額		
	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
年間売上高(①)	28,783,563円	29,000,000円	31,000,000円	33,000,000円
工賃支払総額(②)	8,803,675円	8,900,000円	9,400,000円	9,900,000円
年間述べ利用者数(a)※1	6,292人	6,000人	6,000人	6,000人
年間開所日数(b)	250日	250日	250日	250日
開所日1日当たりの平均利用者数(③)(a/b)※2	25.2人	24.0人	24.0人	24.0人
年間開所月数(④)	12月	12月	12月	12月
平均工賃月額(②/③/④)※3	29,113円	30,903円	32,639円	34,375円

※1 各日の利用者数の総数を入力してください。

※2 小数点第2位以下は四捨五入してください。

※3 円未満は四捨五入してください。

3. 工賃向上に向けた取組方針

これまでの目標工賃の達成状況に対する評価・課題・分析	・令和3年から5年にかけての目標工賃については、達成することができた。
工賃向上の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・弁当事業、喫茶については、経費の見直しが必須である。原材料費の高騰の影響が大きいが、経費削減に努める。喫茶では新メニューでの売り上げ増を図る。 ・原材料費の負担が少ない軽作業、施設外作業を増やしていく。 ・既存の厨房機器(弁当事業)と販路(喫茶2店舗)を活用して、新規の食品加工の作業を立ち上げる。

令和6年度から3か年の具体的な取組方針(年度別)

令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・タオルたたみ作業の新規作業開始。 ・可児駅清掃業務の受注増。 ・ドーナツの製造販売開始。
令和7年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーナツの製造販売拡大。ギフト商品化での販路拡大、売り上げ増。 ・施設外作業新規開拓。
令和8年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ドーナツ新商品の製造販売。 ・施設外作業新規開拓。

4. 主要作業の現状と今後の取組

作業の区分	加工食品の製造・販売		
具体的作業名	ドーナツの製造と販売		
作業内容、特徴	<p>・事業所内の特色である既存の調理機器を活用し、ドーナツを製造、販売する。近隣のドーナツ販売店は、ミスタードーナツだけであり、個人営業のドーナツ専門店もないため競争が少なく、事業としての採算が取れると見込まれる。またドーナツの製造工程も利用者が行う工程が多くあり、利用者の作業としても適している。</p> <p>・喫茶事業では、現在2ヶ所で営業を行っている。現状、目玉になるようなデザートなどがなく、ランチタイムが終わると、客足が遠く現状がある。そこでドーナツをデザートとして出すことで、デザートタイムの客数の増加を目指していく。またドーナツであればテイクアウトとしても販売ができるため、来店する客層が広がっていく。</p> <p>・商品ラインナップとしては、プレーンドーナツ、米粉ドーナツの2種類をベースに、チョコレートや抹茶などのトッピングを加えて、様々な味が楽しめるような販売形態にする。</p> <p>・ギフト用に賞味期限の長い焼きドーナツも製造し、ギフト商品の販売も手掛けていく。</p>		
年間売上額	23,965,561	円	従事する利用者数 11名
現状分析・課題	<p>・商品の試作を行い、商品として提供できる形にしていく。また日々の業務に落とし込み、参加できる利用者を増やして、安定して製造できる体制を構築していく。</p> <p>・喫茶事業での商品の取り扱いと共に焼きドーナツなどの製造も行い、近隣施設での販売なども行っていく。そのためには商品試作を重ねていくことが重要となる。</p> <p>・商品イメージの打ち出し方に弱さがある。美味しい物が出来上がったとしても福祉施設の一商品として終わってしまう可能性もありえる。可児ビジネスカフェという営業アドバイスなどもらえる機関があり、アドバイスも受けながら、商品イメージを想像していく。</p>		
課題を踏まえた目標・方針	<p>・まず商品としてお客様に提供できる形を目指す。職員、利用者が自信を持って販売できる商品を目指す。商品が販売できる形となれば、喫茶での販売に加えて、弁当事業などで交流のある施設等にも売り込みなどを行い商品の認知を増やしていく。</p> <p>・SNSを用いて商品のPRを継続的に行っていく。通信販売の窓口などを用意し、遠方で興味を持ってもらったお客様にも商品が届けられるようにする。また揚げドーナツなどカフェでしか販売をしていない商品も用意し、カフェに来ないと食べられないような限定性も持たせることで既存の喫茶事業への客数増加も狙っていく。</p>		
目標達成に向けた方針・具体的取組	令和6年度到達目標		
	・ドーナツの製造販売開始。		
	令和7年度到達目標		
	・ドーナツの製造販売拡大。ギフト商品化での販路拡大、売り上げ増。		
目標達成に向けた方針・具体的取組	令和8年度到達目標		
	<p>・ドーナツ新商品の製造販売。</p> <p>・ドーナツの製造販売拡大。ギフト商品化での販路拡大、売り上げ増。</p>		

【関係資料】

- ・施設のパフレット・自主製品の紹介資料
- ・工賃向上計画の内容を説明する補足資料(収支決算書等、必要に応じて添付)